

◆ 住宅探訪記 | ユニテ・ダビタシオンを訪ねて(その1)

橋爪 恒平



道路側の外観。1階は吹き放し(ピロティ)、この建築家が元祖です。

今回は、いつもとは少し趣向が変わるかもしれませんが、海外の住宅(集合住宅)を訪ねた時のお話をします。

フランス南部の都市、マルセイユ。町の中心から地下鉄とバスを乗り継いで約30分のところに「ユニテ・ダビタシオン」と呼ばれる集合住宅があります。18階建て、住戸数337戸からなり、一つの建物の中に店舗や保育園、プール、体育館といった共用施設まで備わっています。設計者は「ル・コルビュジェ」という建築家で、1952年(昭和27年!!)に建てられました。

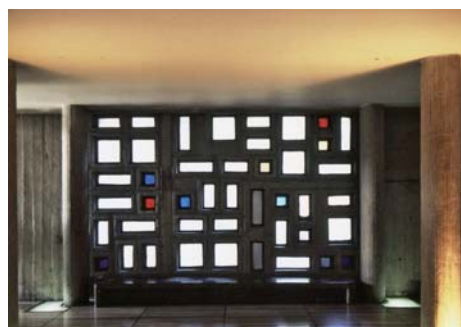
建築設計に携わる人の間では、建築家の名と共にとても有名な建物なので写真や図面等は書店を覗けば数多く見られるのですが、それらの資料に接する度に「実際に住んでいる様子はどんな感じだろう」と気になっていました。そんな最中、色々と調べている内にどうやら幾つか空いた部屋を使ってホテルとして営業しているということが判り、一昼夜過ごせるだけでもせめて「住戸の中の様子」については実体験できる好機と思い仕事の合間に連休を取って、宿泊予約をして向かうことにしました。

バスから降りて、街路樹や敷地内の豊かな木々の向こうに建物がありました。外観はコンクリート打ち放しで、1階は吹き放し(ピロティ)になっていてエントランスはその裏側にあります。落ち着いた明るさの照明と、色とりどりのガラスを通して外の光が入り混ざること、とても豊かな空間に思えました。エレベータで屋上へ上がると、高層であることと少し高台に建っているということもあり、辺りの景色の見晴らしはバグンです。そしてこの屋上には、何と体育館、プール、ジョギング用のトラックのようなものがあります。60年近く前にこれほどの機能を備えた集合住宅を計画し、建てられたことにただ驚くばかりです。

さて、下階へ戻りホテルの受付を済ませ、いよいよ住戸(客室)へ入ります。受付の人の話によると、建物の完成当初から殆ど改装をしていないオリジナルの部屋とのこと。続きは次回にて。。。



建物のメインエントランス。



エントランス内部。



様々な機能を備えた屋上。

俠気とは、強きをくじき弱きを助ける心だて。おとこぎのことです。侠客や遊侠は、その心だての持ち主を指す語で、いわゆるヤクザや暴力団とは、本来全く関係がありません。侠客の歴史は古く、中国の戦国時代（BC400年）にまでさかのぼります。漢の劉邦や、水滸伝の108人の英雄など、すべてが侠客であると云われています。室町時代の悪党（楠木正成等）も、その流れを汲むものです。つまり、新しいもの（国）を創る人には、絶対に必要不可欠なものが俠気ということになります。今の日本の政治に一番足りないものが**俠気**であり、現代日本人が失ってしまったものが俠気であるように思います。

さて、物語の内容は、明石屋万吉（小林佐兵衛）と云う、江戸末期大阪に実在した遊侠の大親分の話となります。この人物 **やくざの親分と云うより、大慈善家**なのです。物語は、万吉が11歳で侠客の道に入るところから始まります。堂島米相場の打破り、大阪見廻組の設立から大阪市消防組総頭取へと、話はおもしろく進んでいきます。

圧巻は、文久3年の大阪見廻組の段です。当時、攘夷勤王派・佐幕派と分れて、人殺しが当たり前となっていた時代。江戸幕府は、京都に《新撰組》を作ったように、大阪にも、治安を護ると云う名目で、各藩に治安の維持を依頼します。大阪は四つの藩がその任務にあたりますが、何故か、（他は、紀州藩や越前藩などの大藩が担当）播州小野一万石 一柳家が大阪の西部を担当させられます。一柳藩は一万石と云う弱小藩、そんな資金もないし、人もいません。そこで、一柳藩の重役は、当時 堂島米相場打破りで名を揚げた明石屋万吉に、その任を依頼します。（というより、泣きつきます。）一柳藩士に取りたてる、武士となり、名字帯刀を許される。その代わりに、警備の資金や人材は、全て万吉が負担という条件。信じられませんが、万吉はその警備の任にあたります。当時、新撰組や見廻組は怪しい人物（攘夷派）と見れば、容赦なく斬り殺す、殺人集団。そこで万吉が行った事は、盗賊や強盗は捕まえるが、攘

夷であろうが、佐幕であろうが、怪我人と見れば助け、手厚い介護の上、治るとそのまま解放するという事を繰り返します。当時長州藩が敵害視されていましたが、そんな事には関係無く、助けたおす。桂小五郎や遠藤勤介なども助けます。万吉のはく言葉に、**勤王も佐幕もあるかい！おれは往来安全でゆく**があります。（なんて、カッコ良いんでしょう。俠気とは、男だけが持っている優しさを指すのだらうと思います。）

勤王だ、佐幕だと云って騒いでいた時、時代に迎合する事無く、自らの信念を貫き通した人。それも自費で。（万吉は、米相場で儲けていました。）カッコ良過ぎる。また、維新後は、大阪府知事初代 渡辺昇に頼まれて、大阪市の消防組の頭となります。（やはり自費で！）今度は、火災で焼け出された人々を自宅に保護し、食事を喰わせる。それが、その後の **小林授産場**（孤児院かつ職業訓練所のようなもの）となって行く。

明石屋万吉については、その他にも男前な話が沢山あります。しかし、その実像を知る資料は非常に少なく、あまり人々には知られていません。次回からは、万吉を訪ねてと題し、まち歩きと万吉の逸話を報告してみようと思います。



現在の講談社文庫版 <俄>

◆ 編集後記

「ル・コルビュジェ」と言えば、近代建築の巨匠で彼に師事した日本人も活躍し、日本の建築界にも多大な影響を与えました。一方、「司馬遼太郎」も日本文学界の巨匠といっても過言ではないでしょう。遺した作品の表現方法は全く異なるものの、作家という観点においては多くの共通点が発見できそうですし、建築や文学に限らず異なる分野の情報が、その作家に影響を与える要素もたくさんありそうです。ネットで簡単に情報を入手できる時代ですが、今回の題材を通じて、相変わらずリアルな経験は正確な判断をする上では必要ですし、自分に何を入れて変化を期待するのか考えて行くことも楽しい事だと感じました。（松村 泰徳）

◆ 編集メンバー

井戸田 精一	井戸田精一アトリエ
辻 祐司	辻 建築設計室
橋爪 恒平	atelier nest -アトリエネスト-
松村 泰徳	松村泰徳建築事務所
片山 敏浩	株式会社 片山工務店

「アーキテクトキャラバン」は、建築に携わる有志が集まり、その活動内容や住まいに関する情報などを、広く皆様へお届けできる場として、年4回季刊誌形式にて発行しております。また、住まいの相談会、勉強会なども開催しております。ご意見・ご感想・相談等御座いましたら、右記事務局までご連絡頂きます様宜しくお願い致します。

編集・発行 [アーキテクトキャラバン]

大阪事務局 / 辻 建築設計室
大阪府中央区大手通1丁目3-7
日宝大手ビル4F
TEL : 06-6949-8090
FAX : 06-6949-8074
E-mail: tsujiken-tenma1007@hop.ocn.ne.jp

奈良事務局 / 松村泰徳建築事務所
奈良県葛城市北花内261-5
松村ビル2F-WEST
TEL : 0745-69-5938
FAX : 0745-60-6524
E-mail: contact@ym-arc.jp
URL : http://www.ym-arc.jp

Copy right 2010-2012 Architect Caravan All rights reserved